

令和2年度（第1回）山鹿市総合教育会議議事録

日 時	令和2年7月21日（火）9時
場 所	山鹿市役所（4階401会議室）
出席者	中嶋市長 堀田教育長 教育委員：栗川委員、野中委員、上田委員、野口委員 市職員：木下総務部長、瀬口教育部長、若杉首席教育審議員、藤本教育総務課長、百田学校教育指導室長、新堀教育総務課審議員、園田社会教育課長、西村子ども課長、徳永教育総務課総務企画係長
傍聴者	なし

- 1 開 会
- 2 議 題
 - (1)山鹿市教育大綱（令和元年度分）の実施状況について
 - (2)山鹿市教育大綱の改定について
- 3 その他
 - (1) 次回開催について
 - (2) その他
- 4 閉 会

発言者	発 言 内 容
新堀教育総務課審議員	<p>令和2年度第1回山鹿市総合教育会議を開催します。</p> <p>まず、開会に際しまして、議題と会議の公開の可否について確認します。</p> <p>本日の議題は、「教育大綱の令和元年度分の実施状況について」、そして、現教育大綱が令和2年度で最終年次となりますので、令和3年度からの「教育大綱の改定についての方向性の確認」となっております。</p> <p>これらの議題につきましては、非公開とすべき事由がないことから、本日の会議及び議事録につきましては公開とします。</p> <p>また、会議の時間につきましては、市長の公務もごございますので、午前10時には終了したいと思いますので、ご協力の程よろしく申し上げます。</p> <p>なお、本日の傍聴者の方はおられません。</p> <p>それでは、議題に入ります。中嶋市長に会議の議長をお願いします。</p>
中嶋市長	<p>本日は、堀田教育長をはじめ、教育委員の皆さまにおかれましては、お忙しい中にご出席いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>また、日頃から、市政の推進、教育行政の充実・発展に多大なるご尽力を賜り、厚く御礼を申し上げます。</p> <p>さて、先般の豪雨災害では、県南部を中心に甚大な被害が発生しましたが、本市におきましても、市内各地で土砂崩れ等の災害が発生し、残念ながらお二人が亡くなられております。</p> <p>また、鶴城中学校裏にあります水道施設の排水管の破損により、八幡・平小城・</p>

	<p>三岳地区では、断水や水の濁りが発生し、各小学校には大変ご迷惑をおかけいたしました。ただ、学校におかれましては、水筒の持参や弁当給食に切り替えるなど、迅速なご対応をいただき、ご理解ご協力で改めてお礼申し上げます。</p> <p>一方、新型コロナウイルス感染症の収束の見込みが立たない状況ではありますが、学校現場では、コロナ禍における「新しい学校生活様式」による、子どもたちの健康確保や学習指導などの教育活動に取組みをいただき、誠にありがたく思っております。関係者の皆様には敬意を表したいと思っております。</p> <p>さて、本日の会議では、ただ今、案内がありましたように「教育大綱の実施状況」と「大綱の改定」について、有意義な意見交換ができればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。</p> <p>それでは、まず「令和元年度の実施状況」について説明をお願いします。</p>
<p>藤本教育総務課長</p>	<p>第2次山鹿市教育大綱は、平成29年度から令和2年度までの4年間を計画期間とし、本市教育の方向性として3つの基本方針を定め、方針ごとに設定した施策ごとに事業を推進しています。そして、毎年度、基本方針別に施策の実施状況を検証し、第1回目の総合教育会議で前年度の実施状況を報告しているところです。</p> <p>昨年度(平成30年度分)までの実施状況報告書については、事業ごとに「成果・取組状況」から「今後の取組と課題」として報告しましたが、「文字が多く見にくい、達成度合いがわからない」等のご意見もありましたので、今年度(令和元年度分)の実施状況報告書は、達成度合いを測る数値目標として、「第3次山鹿市教育基本計画」の成果指標等を引用し、3ページ以降の個別施策について、取組状況の写真や実績等をグラフ化して、わかりやすい内容に見直したところです。</p> <p>3ページをお願いします。</p> <p>基本方針別施策の実施状況について、様式は見直しましたが、内容はこれまで同様に、上から基本方針、基本施策、その下に教育大綱を反映した「第3次山鹿市教育基本計画」内の基本施策から事業名を記載しております。なお、事業名欄は、施策に対応する事業として1つとは限らず、関連する事業を列挙しています。</p> <p>そして、中段に取組の状況や実績等を分かりやすく数値や写真等で示し、下段に事業に取組んだ状況と成果をまとめ、最後に課題と方向性をまとめています。</p> <p>なお、3ページの基本方針「命を輝かせる教育」、基本施策「自他の命を大切に教育の推進」につきましては、指標として「不登校児童生徒数の推移」を掲載しています。</p> <p>4ページの基本施策「豊かな心と社会性を育む教育の推進」は、「道徳授業の様子」を掲載しています。</p> <p>5ページの基本施策「インクルーシブ教育の推進」は、「ユニバーサルデザインの視点に基づいた授業づくり」と「合理的配慮コーディネーターの活動状況」、「公開保育の実施状況」を掲載しています。</p> <p>6ページの基本方針「志を育てる教育」、基本施策「山鹿学の推進」は、「生涯学習講座(歴史探訪コース)」と「博物館展示事業」を掲載しています。</p> <p>7ページの基本施策「読書のまち山鹿の実現」は、「市立図書館の年間利用者数」と「図書カード登録者数の推移」を掲載しています。</p> <p>8ページの基本施策「国際化に応じた教育の推進」は、「外国語活動(英語)が好きな児童の割合」と「クーマ市との国際交流事業」を掲載しています。</p>

	<p>9ページの基本方針「生き抜く力を育む教育」、基本施策「確かな学力と健やかな体の育成」は、基本計画の指標でもあります「NRT学力平均偏差値の推移」を掲載しています。</p> <p>10ページの基本施策「ESD（持続可能な社会づくりの担い手を育む教育）の推進」は、「菊鹿中学校の教育活動例」を掲載しています。</p> <p>11ページの基本施策「凡事徹底」は、「市長あいさつ運動の様子」、「親の学び講座」、「早ね あいさつ 朝ごはん運動の啓発ポスター」を掲載しています。</p> <p>説明は以上です。</p>
中嶋市長	ただいま説明がありましたが、ご意見をお願いします。
野口委員	<p>昨年度の会議で、数字やグラフ等で表せるものはできる限り表してくださいということをお願いして、そのあたりは整理されていると思います。ただ、報告書の目標値として教育基本計画の成果指標等を引用しているということで目標値を示してある施策が2か所程ありますが、全体的にみるとそれぞれがバラバラです。逆に言えば、わざわざこの大綱に教育基本計画から数値を持ってこなければならぬのかと思います。</p> <p>例えば、9ページにはNRT学力平均偏差値が示してあり、全国平均に比べて山鹿市はこの程度ということわかります。ただ、この目標値を記載しても、教育基本計画での目標値はもっと高い目標があって、それからすると低いということになりますが、そのことは報告書に一切書いてありません。一方、3ページの不登校のところでは目標値はクリアと書いてあります。このことは大綱の実績としては総体としてどうかと思います。教育大綱では山鹿市としての位置付けがわかればいいのではないかと思いますし、この2つの目標値は教育基本計画の点検評価のところできっちりやっていけばいいと思いますので、大綱は総体としての評価でいいと思いますがいかがでしょうか。</p>
藤本教育総務課長	昨年度までの報告書では、数値実績等がなかったということで分かりにくい部分もあり、今回から教育基本計画の成果指標等を引用して取りまとめたわけですが、再度、全体的なバランスを見て検討いたします。
堀田教育長	ただいま目標値についてご意見がありました。教育委員会では「日本一の学園都市やまが」を目指し、全国学力学習状況調査や県学力調査において、市内全ての小中学校が全国・県平均を上回るという目標値を掲げています。9ページのNRT学力平均偏差値については、市としてもっと高い目標値があります。ただ、NRTは実施していない管内もありますので、来年度からの指標については、全国学力学習状況調査に変更しようと思っています。
野口委員	市長は、山鹿市は不登校も少ないし成績も良いということを言われますが、全体を通して目標を維持することは、非常に難しい事だと思います。不登校を減らす目標や学力もそうですが、今の状況を維持することは難しい事で、色々な手立てをされて、それをつぎ込んで数字を維持されている。それでももっと高くしようと、もっと良くしようとということで取組んでいただいている点については感謝したいと思います。市長が堂々と言える状況は作っておかないといけないと思いますし、難しいことだと思いますが是非お願いしたいと思います。
中嶋市長	他にありませんか。

野中委員	<p>大綱の検証にあたっては、余り細かいところを記載すると、その取組だけなのかと思ったりもします。例えば、「凡事徹底」については、あいさつの部分しか書いてありませんが、朝ごはんや早寝のデータが全然でてこないことが気になったりもします。そういう意味では、余り細かな部分で縛るのはどうかなと思います。</p> <p>もう1点は、第2次教育大綱を策定するときにESDは是非入れてくださいとお願いしましたが、最近ではSDGsの世界ですので、今回は言葉を改めていただきたいと思っています。報告書には、周知を図りとか認知度が低いみたいなことが書かれていますが、結局、国連10年のESDの頃は世間も言っていましたし、それを繋いで学校も実は山鹿は少し低かったと思いますが、それでも多少の取組はあった程度で、ESDという言葉自体は過ぎていきますのでマスコミも使いません。当然理念としては、ESDの理念の上にSDGsが来るのですが、こうやって育てた子どもたちが今はSDGsなんですね。目標に向かってというところなんですね。ところがそこが若干ですが山鹿市では弱かったと思っています。</p> <p>改定に向けては、山鹿市がSDGsに対してどういう姿勢で臨むのか、考えているのかということをお聞きしたいとも思いますし、城北高校とかは先進的に取組まれていましたので、そういったことも踏まえながらSDGsに言葉を持っていけば社会的な盛り上がりもいただけるのではないかと思いますし、タイミング的にはいいと思っていますところ です。</p>
藤本教育総務課長	<p>大綱の内容につきましては、次年度からの第3次大綱を策定する中で検討していきたいと思っています。</p>
上田委員	<p>この会議は、教育課題について共通理解し、それぞれの立場でどのようなことができるか、実際に協働ができるのか、どういう動きができるのかということをお話し合っていくものだと思います。また、今回の報告書につきましては、色々と工夫していただいて、わかりやすく見やすくなっていると思いますが、市長部局との連携がどんなものなのか、どのようにしてやってきたのかということが全く見えませんので、そのあたりが表現できないものかと思っています。</p> <p>また、野中委員もSDGsの事をおっしゃいましたが、今、日本はもちろんですが世界的にそれが求められています。そういう社会を担う人材をどうやって学校で育成していくのかという方向性をしっかり考えて、教育の中での位置付けや実際の活動方法なども考えていかないと、今の世界で生活するうえで大変な状況になるのではないかと思っていますところ です。</p> <p>次に、私も報告書の11ページ「凡事徹底」が気になっていました。生き抜く力を育むと言ったときに、凡事徹底は非常に大事なことです。何を大事にしているかというところをもう少し追及していかなければならないと思います。例えば、見守り活動としての防犯パトロールが書いてありますが、これは地域で後押しする形でやっていることであって、子どもたちの生き抜く力を育てるためにはこれを書いていいのかなということも思ったわけですが、そのあたりを、この基本方針で3つ挙げていますが、そこに繋がるものとして何をやっていかなければいけないかということは、もう一度、次の段階に考えていく必要があるのかなと思ったところ です。</p>

中嶋市長	ただ今のご意見に対して何かございますか。
野中委員	<p>今おっしゃったような事は、ESDやSDGsにしても生活指導面にしてもそうですが、実際に子どもたちや学校がどのように動いていくかというところで、教育委員会の中にリーダーシップをとる人間がきちんといないと動きにくいのではないかと思います。残念ながら、教育部はどちらかというところと教育の教員があがって教科でのバランスをとって配置をしてあり、そこには、領域について精通した人も併せて考えてあるとは思いますが、そうすると領域で精通した人の精通した部分が学校のほうに降りていくシステムが少し弱いのかなと思います。</p> <p>例えば、この報告書を作る際には意識されたかもしれませんが、それ以前の段階で意識できているのかどうか。県からは環境教育関係でいろんなことが下りてきて学校に流しますが、県任せだったのではないかと思います。</p> <p>教育大綱に掲げた方針や施策については、理念だけではなくて、教育部の中で担当者がもっと動ける体制とか、波及効果ができるような仕組みにしておかなければならないと思ったところです。</p>
堀田教育長	<p>この報告書には一部の取組しか記載していませんが、教育部では様々な施策を展開しているところです。野中委員からは、その分野・領域のリーダーシップという話がありましたが、例えば、今年度は不登校を減らすために新たに指導員を増やしていただいて、その3人のリーダーを中心に取組を行っております。</p> <p>また、英語教育も入ってきましたので、英語専科のリーダーとして栗原指導員を任用してもらい、英語力を高めるために指導をしていただいております。そういう項目に対しては全てとはいきませんが、ある程度は行政から支援していただいている部分がたくさんあります。</p> <p>まだまだ課題はありますが、今後は、委員さん方が言われたように、具体的に報告をしていかないと見えない部分もたくさんあるのかなと思っています。</p>
中嶋市長	<p>この会議の場でそのような意見を言っていただくと、子どもたちへの対応や課題も出てきますし、総務部長も出席をしていますが、教育委員会から提案していく中で、教育の一つの方向として人的にも財政的にも必要な支援というものがわかってくるのかなと思います。</p> <p>教育長との日頃の会話の中でも、極力そういった対応や措置というのは、やっていかなければならないという思いはしています。市長部局と教育委員会双方が相寄って、大事な教育を語る場があることは有意義だという思いはしています。</p>
堀田教育長	何をするにも人材と財源が必要となってきますが、今後も、教育委員会と市長部局の連携を強くしていかなければならないと思っています。
中嶋市長	他にありますか。
野中委員	山鹿市全体としてSDGsに関わるような取組や、今後、推進部署のようなところを設置する予定はありますか。
木下総務部長	SDGsにつきましては、それぞれの部署で取り入れて施策に反映していますが、それに特化した組織というものは現在ありません。
野中委員	昔の話になりますが、ISOがずいぶん叫ばれた時代に、私は本渡市で勤務をしていました。学校での紙の問題や使い方にしてもそうでしたが、何かを掲げて部署があつて推進室があると大きく動けますが、ただ、どこにあるかわからない

	<p>状態だと、なんとなく隠れてしまって皆さんの認識にお任せしますということになってしまいます。</p> <p>実際、SDGs に関しては喫緊の課題ですので、教育の中でも急いでやらねばならないことではありますが、どうもお任せで、どこに責任があるのかもわからないような状態になってしまっているような気がして仕方がないです。</p>
中嶋市長	<p>SDGs も様々な施策の中にはでてきておりますが、先頭を切って行く部署までではございません。委員の皆様いろいろな話を聞きながら、私の認識が足りないのかなと思っているところです。いろいろな意見を聞きながら、どう位置付けて解消していくかということは、今後の大きな課題の一つとしてとらえていきたいと思えます。</p> <p>他にありますか。</p>
栗川委員	<p>適応指導教室の先生方は、ものすごく頑張られていると実感しています。学校の校長や先生たちと保護者との不具合があった場合などは、中に入って収めていただきますし、出てこない子どもも引き出して、いろんなプログラムを考えて楽しませてくれる先生たちがおられます。ただ、そういう現場では何かをやらうとすると必ずお金が必要となりますが、年間10万円くらいだろうと思いますが、それも出ていないと聞いています。そこには知的障がいを持っている方もおられますので、当然、福祉関係の手をつなぐ育成会とか重複していますので、民間が支援されている部分もあります。</p> <p>また、何とかその子どもたちを支援しようということで、ものづくりの体験をさせると、すごく興味を持ってきます。不登校ではない子どもよりも目を輝かせて、そういった取組に参加しています。もちろん、その先生を雇う費用は行政から出ていますが、不登校の子どもたちに対する活動費について、どうにか支援いただけないものかとも思っています。</p>
中嶋市長	<p>取組に対する予算についてのご意見ですが、事務局からお願いします。</p>
百田学校教育指導室長	<p>適応指導教室につきましては、オアシス教室と鹿本にもありますが、昨年度は、鹿北にも作りまして人員を増やす形での対応はしています。さらに今年度は適応指導教室での活動を充実させるために、それぞれにタブレット端末を使った学習を行うということで推進予定ですが、コロナの影響で山鹿市全体でのタブレットの配備が遅れております。人も増やし学習環境も整えているところですが、活動費については検討させていただきます。</p>
瀬口教育部長	<p>事業の内容を充実させるために、その効果や見通しをきちんと整理したうえで要求していきたいと思えます。</p>
中嶋市長	<p>山鹿市の教育では、特に、弱い立場や不登校の子どもたちなどを、人的にもしっかり支えていくというようなシステムづくりや支援する形というものが浸透していると思えます。それが結果として、不登校や支援が必要な子どもたちへの効果というものが現れていると思えます。このような非常に大事な部分は、自信をもって展開していけばいいと思えますし、わずかな金額であっても、私は基本的にはその辺を大事にしたいと思えます。教育委員会でも検証をお願いします。</p>
上田委員	<p>先程の話に戻りますが、この会議をずっと通していく中で、教育委員会と市長部局の連携はずいぶん出てきたことは感じています。いろんな分野での補充や考</p>

	<p>えていただいていることは私たちにはわかります。ただ、地域の方たちには、それがほとんどわからないと思いますので、何かわかるような表現が必要ではないかなと先程は言ったところでした。</p>
中嶋市長	<p>私も実感として感じています。元々、教育委員会だけで行っていたことを、総合教育会議があることで市長部局も参加しながら共に大事な教育について語りあって方向性を定めていく。この大綱を策定するときには、非常に熱い思いを持って自分の思いもかなり言いました。会議を通して様々な意見が出て、実際の施策に生きていくという意味では非常に効果的だと思います。</p> <p>それでは、次の議題に移ってよろしいでしょうか。</p>
教育長、委員一同	はい。
中嶋市長	それでは、教育大綱の改定について説明をお願いします。
藤本教育総務課長	<p>現在の教育大綱の計画期間が今年度で4年間の最終年次となることから、改定に向けた今後の方向性を確認いただきたく、事務局よりご提案をするものです。</p> <p>改定についての資料をご覧ください。</p> <p>現行の教育大綱の概要を1番にまとめております。(1)に策定の考え方として、平成29年7月から現大綱を策定し、(2)の対象とする、いわゆる計画期間として、現市長の任期に合わせて令和2年度までの4年間としています。</p> <p>次に、2の改定方針の事務局案ですが、(1)の改定における基本的な考え方は、今年度が最終年次であるため改定を行うこととなります。</p> <p>まず確認の1点目として、現行の大綱をベースとして次期計画を策定するのか、全く新しく大綱を策定し直すのかどうかをご確認いただければと思います。</p> <p>次に確認の2点目は、(2)対象期間の年数についてです。</p> <p>2ページの下段をご参照ください。第1案としては、これまで同様、市長の任期に合わせて、令和3年度から6年度までの4年間とする案です。</p> <p>第2案としては、山鹿市の最上位計画である「第2次山鹿市総合計画」の前期計画が令和2年度までの5年間で終了し、来年度、令和3年度から7年度までの5年間で後期基本計画期間となっており、今年度中の後期基本計画の策定に向け、市長部局と共に作業を進めているところです。</p> <p>また3ページに、関係する各計画との体系図を示しておりますが、第2案は、市の最上位計画である「第2次山鹿市総合計画後期計画」との整合を図るため、令和3年度から7年度までの5年間とする案です。</p> <p>確認の2点目として、計画対象期間を市長の任期である4年間とするのか、上位計画の総合計画と整合し5年間とするのかでございます。</p> <p>確認の3点目ですが、2ページ中段の4番で、現行の「第3次山鹿市教育基本計画」については、令和3年度までの5年間として各種事業に取り組んでいますが、事務局案としまして、次の「山鹿市教育基本計画」の対象期間については、市の最上位計画である「第2次山鹿市総合計画後期計画」と確認いただく「第3次山鹿市教育大綱」との整合を図るため、令和4年度から7年度までの4年間とし、令和8年度以降の計画については、対象期間を3つの計画期間が一体となる5年間とする案です。以上の3点についてご確認をいただければと思います。</p>

中嶋市長	<p>大綱の改定について、3つの点から説明がありましたが、皆様のご意見を申し上げます。</p>
野口委員	<p>この教育大綱や教育基本計画は、法律に基づく努力義務で法律事項だと思いますが、教育基本法で国が基本方針を定めて、その中身をきっちり参酌して妥当性をきちんと判断しなさいとなっています。</p> <p>ただ、2ページに各計画期間の流れが掲載してあるように、市の第2次大綱や第3次教育基本計画は、国の教育振興基本計画の最終年度がスタートになっていますので、これでいいのかなと最初に疑問に思うところです。国が新たな基本計画を作って、それをきっちり参酌して、その年にスタートする必要はなく、1年後や2年後にスタートすることはいいと思いますが、それが最後の年にスタートするか、後ろに持ってくることはそれでいいのかなと思います。元々は法律事項ですので、法律できちんと位置付けられた国の基本計画というのは、きちんと捉えなければならぬし、全部とらえて全部それにぶら下がるのではなくて、当然、地域の実情というのがありますので、大きな変化がある場合はそれをきっちり入れ込まなくてはなりません。だから今の形から行くと、最終年度にスタートを持ってくるというのは疑問に思っています。</p> <p>もう一点は、木下総務部長にお聞きしたいのですが、市の10年間の総合計画は何らかの法律に基づいて策定しているものでしょうか。</p>
木下総務部長	<p>総合計画につきましては、以前は法律に定められており議会の議決事案でした。現在は、法律の改正が行われて、任意と申しますか報告義務まではありませんが、議会には報告しております。</p> <p>期間も以前は10年と定められており、総合計画の下に前期・後期計画や実施計画がありましたが、現在の総合計画を策定するときには法律の改正が行われており、一番議論になったのは期間の問題でした。なぜかと言いますと、これだけ世の中が早いスピードで変わっていくのに、10年先をどう描くのかというのが一番議論になったところです。ただ、その時点では今までの10年でしたので、今回まではという形で策定しました。実際、各自治体や県を見ますと、蒲島知事はプロジェクト4年とか、自分の任期に合わせた部分をされています。</p> <p>総合計画というものは大きな最上位計画でありながらも、実際に動くときには実施計画のほうが実働的になります。今、後期計画を作っておりますが、次の段階では期間の問題も再度検討すべきだと思いますし、もう一つ、あえて申し上げますと野口委員がおっしゃいましたように、国の教育計画と市の教育計画については、内容は当然ですが期間についてはリンクさせるべきではないかなと思います。</p>
野口委員	<p>市の大きな計画や方向性というものは、市長が変わるとそこで変わるのが普通だと思います。当然、実施計画は毎年見直していくことで小回りが利くようにはしてありますが、山鹿市の教育大綱が4年間となっているように、大きな計画は市長の任期に合わせたほうがやりやすいのではないかなという気がします。</p> <p>私はずっと、知事の任期に合わせて計画もやってきました。知事が変わると見せ方も含めてどこに力を入れるとか結構大きく変わりますし、市の総合計画も同じだと思います。教育に関しては法律事項でできていますので、国の計画の最後にスタートするということがどうしても引っかかるのですがいかがでしょうか。</p>

藤本教育総務課長	<p>現在、大綱が4年、総合計画が5年、教育基本計画が5年と1年ずれている現状があり、事務作業をする側からすると、大綱との整合性が取りにくい部分が若干あります。</p> <p>事務局としましては、大綱と教育基本計画は計画期間が合わさったほうがやりやすいということを考えています。</p>
野口委員	<p>今おっしゃったように、当然、市の教育大綱と教育基本計画の期間は同じほうがやりやすいと思います。</p> <p>一方で国の計画もあって、国の計画で大きく方向転換することもありますので、国の計画の最終年にスタートさせるということは、ちょっとあんまりではないかということです。</p> <p>市の大綱と教育基本計画の期間を揃えるということについては、何も異議はありません。</p>
藤本教育総務課長	<p>国の計画が令和4年度までの5年間で、市の教育基本計画とは1年間のずれがあります。どこかの時点で合わせるという形は出てくると思います。また、大綱との絡みもありますので、今後、検討していく必要はあろうかと思っています。</p>
堀田教育長	<p>そもそもこの教育大綱を作りなさいとなったのは、新教育制度になったからです。大津市で起きた大きな事件もあり、権限と責任の明確化を図るということで教育長と教育委員長を一本化して新教育長が置かれました。また、市長が直接教育長を任命することにより、任命責任も明確化されました。</p> <p>そのようなこと考えると、国の計画は5年ということですが、この大綱は市長の任期に合わせて作っていったほうがいいと思います。</p>
中嶋市長	<p>私もそう思います。第2次大綱を作るときには、第1次大綱を作った間もないということもあってそのままという案もありましたが、非常に大事なことであるので絶対だめだということで、私の教育に対する強い思いを言わせていただいて作りました。</p> <p>次の新たな大綱についても、誰が市長になるかわかりませんが、それに基づいて整理しなければならないと思います。ただ、途中経過として、今年度に様々な検証はすることは大事です。新たな時期に教育委員と次の市長とでしっかりとした論議は必要であり、そこが新たなスタートになると思っています。</p>
野口委員	<p>市長の任期に合わせてということは、基本計画も4年でいいということでしょうか。山鹿市としては、大綱とそれに沿った形の基本計画は、市長の任期に合わせて4年計画で作るが、国の基本計画とは年数が違うので、そこはそこの時点に合わせてやるということでしょうか。</p> <p>やり抜きますということであればそれでも構いませんが、それに対して県からどうこう言われることはないのでしょうか。</p>
堀田教育長	<p>野口委員がおっしゃることはよくわかりますが、新教育制度になって教育長の任期が4年から3年になりました。以前は、教育長の任期は常に市長と同じでしたが、教育の中に政治は入れてはならないと、首長が変わるたびに教育までも政治色が入ってしまっはならないという流れの中でこういう制度ができました。首長が変わっても教育長は3年で1年ずれていきます。</p> <p>そういう流れもあり、今おっしゃったように国とは一致しないのですが、大綱と</p>

	基本計画の期間は同じほうが事務局としてはやりやすいと思いますので、そのあたりをきちんと整理しながら、どういう方向でいくのかを検討してまいります。
瀬口教育部長	市の総合計画、教育大綱、教育基本計画の3つの関連で着眼していましたが、国の計画を合わせようとする物理的に合わない部分が出てきています。 ただ、大綱の期間は市長の任期に合わせて4年ということですので、再度整理いたします。
野中委員	僅か4年の中でも状況が変化している世の中ですので、当然、細部のところは変わってくるのだらうとは思いますが、大綱ですので、そこは4年でいいと思います。また、国の第4期の方針が来年末には見えてくるとは思いますが、そんなに一大転換してしまうことはないと思います。国とのずれは致し方ないところですので、できれば4年でいっていただけたらいいかなと思います。
木下総務部長	4年か5年の議論があっていますが、どこかで合わせようすると必ず齟齬が出ます。一番現場に即したやり方をするならば、市長の任期に合わせて、総合計画、大綱、教育基本計画を4年でパッケージ化すればいいと思います。あまり4年5年に注視せず、国の計画は5年で動きませんので、国の計画が途中で大きく変わった場合は、現計画を改定するという選択肢を持たせておいたほうが臨機応変に動けると思います。
野口委員	皆さんの話を整理しますと、教育大綱は市長の任期に合わせて4年として、大綱と教育基本計画も同じ期間とすれば、施策を整理したり事業を組むにはやりやすいのではないかと。そして、国の計画に合わせてやりながら、大きく変わるときは変更するというのでしょうか。
中嶋市長	そういった方向で再度検討していただくということによろしいでしょうか。
教育長、委員一同	はい。
中嶋市長	次に、次回開催について説明をお願いします。
藤本教育総務課長	資料の2ページをお願いします。来年度からの第3次大綱の策定に向けて、これから改定作業を進めてまいります。次回の会議につきましては、11月頃に予定し、議題としては「第3次教育大綱」の素案について、ご検討いただくところで準備をしたいと思っております。 その後、年度末に第3回目最終案のご確認をお願いしたいと思っておりますが、来年2月には市長選挙が予定されておりますので、状況によっては最終案の完成にしばらく時間を要することも想定されます。今後の予定については以上です。よろしくをお願いします。
中嶋市長	ただ今、提案がありました。ご意見はございますか。
野口委員	素案を作られるときには、きちんと4年間の総括を踏まえて整理をしたうえで提案をお願いします。
藤本教育総務課長	わかりました。なお、素案を策定するにあたっては、現在の大綱をベースとするのか、まったく見直すのかというところの確認をお願いします。
堀田教育長	先程、大綱の成果等の報告がありまして、これは大綱ですので目標は達成していないのもしれません。まだ継続しななければならないものとか、十分には徹底してない、浸透していないという部分が沢山あるような気がします。

	<p>大綱は4年計画ですので首長が変わるたびにまた変わるのでしょうが、基本的に、基本ベースとなる3つの方針については現計画でいって、変えるべきところは新たに変わるほうがいいのかと思います。</p>
中嶋市長	<p>先程からの論議からすると、事務局から提案があったような11月に素案を検討するということがいかなものかと思います。新たな首長の思いというのは、非常に大事にしなければならないと思いますので、11月は、これまでの3年間の検証をしっかりとやって、その次の会議で、新たな首長と教育委員とで、検証の結果を用いながら、山鹿の教育方針をどういう方向でいくのかということを実ら白な中で論議したほうがいいと思います。</p> <p>少々遅れても構わないので論議することがとても大事な部分であります。1年かかって検討してもいいと思います。それが山鹿の教育をどうするかという一番大事なところになるとと思いますので、事務局から前もって素案を出すということは、かえってまずいかなと思います。</p>
野口委員	<p>今回は素案ではなくて、課題等を整理すればいいと思います。それを基に、次の議論ができるように方向性を案としていくつも出していけばいいと思います。</p>
木下総務部長	<p>市の総合計画も見直しを行っていますが、年末までに、次に向けた前期計画の検証という形でやっておりますので、同じように合わせたほうがいいのかと思います。</p>
野中委員	<p>教育委員会では、大綱を受けていろんな施策をやっている、その反省や課題等は常に出ているわけです。だから、次回に検証を作られるときには、あんまり細かいものを作る必要はなく、大枠の反省でよくはないかなと思います。</p> <p>今回はデータ込みで様々な形が出ていますが、我々は毎年、教育事務関係の反省資料もいただいて検討もしており、この後の教育委員会でも事務の点検評価もあります。是非、あまり緻密で量が多いものではなくて、大枠で結構ですので課題等を出していただけたらいいのかなと思います。</p>
中嶋市長	<p>第2次の教育大綱を作った時には、教育に関する大きな骨格について、山鹿市は何と何を柱にしていくのかということ協議したいと思って提案しました。まさに基本方針の3本柱というものを大事にしていきたいと思っておりますし、次の大綱でも、これまでの論議や経過を受けた中で、山鹿市が向いている方向というものが、皆にわかるようなものが大綱の中では必要だと私は思います。</p> <p>それでは、意見は大体でたようですので、以上でよろしいでしょうか。</p>
教育長、委員一同	<p>はい。</p>
中嶋市長	<p>今回は11月に検証という形で論議をしていただきたいと思います。</p> <p>本日は、大変貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。以上で、議事を終わります。</p>
新堀教育総務課審議員	<p>本日の会議の全日程は終了いたしました。</p> <p>これをもちまして、令和2年度第1回山鹿市総合教育会議を終了します。</p>